

欧州特許庁、Googleとの協力による機械翻訳サービスの提供を開始

2012年3月1日

JETRO デュッセルドルフ事務所

欧州特許庁(EPO)は、2月29日、Googleとの協力によって新しい機械翻訳サービス「Patent translate」の提供を開始した旨、プレスリリースを行った。

同サービスは、Googleの翻訳技術を活用し、英語と、フランス語、ドイツ語、スペイン語、イタリア語、ポルトガル語およびスウェーデン語との間での特許文献の機械翻訳を可能とし、欧州で発行される特許文献の約90%を網羅している。そして、2013年には、デンマーク語、オランダ語、フィンランド語、ギリシャ語、ハンガリー語、ノルウェー語が利用可能となり、2014年末までには、EPC締約国の28の公用語に加えて、中国語、日本語、韓国語、ロシア語の合計32言語について機械翻訳が提供される予定である。

同プレスリリースによれば、EPOとGoogleとの協力は、特許文献の機械翻訳の品質について大幅な改善をもたらしているが、これは、EPOから提供された数十万件にも上る7言語での高品質の特許翻訳によるものであり、Googleは翻訳システムの強化にそれらを利用した。また、時間をかけてより多くの言語のコーポラが追加されるにつれて、更なる進歩が達成できるだろうとしている。

EPOのバティステリ長官は、同プレスリリースにおいて次のとおりコメントしている。「本日の開始は、特許文献からの世界中の言語の壁の除去へ向けたランドマークである。Patent translateは、企業やイノベーターに対して、関連特許文献の特定およびそれらの彼ら自身の言語への翻訳を可能にする。また、重要な翻訳の章を含む単一特許の実現を促進する。この新たなツールは、無料特許データの最大のプロバイダーとしてのEPOの主導的役割を明確に示し、ユーザーの言語に関係なく特許に含まれる技術情報へのアクセス性を改善するというGoogleとEPOの両者の目的を効果的に支えるものである。」

－ EPOのプレスリリースは、以下参照 －

[EPO and Google remove language barriers from patent documentation](#)

－ 「Patent translate」のウェブサイトは、以下参照 －

[Patent translate](#)

－ EPOとGoogleの協力についての欧州知的財産ニュースは、以下参照 －

[欧州特許庁、Googleと機械翻訳の長期的な連携協定に合意\(2011年3月27日\) \(PDF\)](#)

[欧州特許庁、Googleと機械翻訳の協力に合意\(2010年12月1日\) \(PDF\)](#)

(以上)